

平成 16 年度 教師海外研修（派遣国：マラウイ共和国）実践報告書

1. タイトル 楽器を通して国際理解
-
2. 氏名 福島直美
-
- 学校名 金沢市立兼六中学校 担当教科 音楽
-
3. 実践教科及び時間数 音楽（1年3時間，2年3時間，3年8時間）・総合（21時間）
-
4. 対象生徒・学年及び対象人数 1年190人，2年21人，3年90人
-

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

本校では、音楽の授業において、「和楽器」や「民族楽器」の学習を積極的に行っている。(写真1、2)特に「楽器」にこだわっているのは、楽器を単に音楽を表現するための道具ではなく、先祖から脈々と継承されてきた美的感性の粋が結集したものである。「楽器」を学ぶことによって演奏技術が身に付くこともあるが、演奏体験を通してその「楽器」を取り巻く芸術全体や「楽器」自体の歴史、「楽器」と「人間」との関わり合いなどに気づくことが重要であると考えている。

今回の取り組みでは、「アフリカの太鼓」という「楽器」を切り口として、演奏体験や映像を通して、「アフリカ」という地域やそこに住む人々の生活、近年起こっている様々な問題、地球的課題に踏み込んでいくことを大きな目的とした。

授業の詳細

1時限（1年音楽）◇アフリカのリズムをたたこう①

まず、全員で西アフリカのお祝いの歌「ドンバ」のリズム※（資料1）をたたき、その特徴からどの地域のリズムなのか考えた。このリズムは、3つのパートからできているが、4分の3拍子のパートと4分の2拍子のパートを同時に演奏するという難しいものである。「複雑なリズム」「太鼓」というキーワードから「アフリカ」という声があがることを期待していたが、どのクラスでもなかなか「アフリカ」にはたどり着かなかった。結局、CDや資料集の情報から、アフリカのリズムであることを伝え、地図で確認した。

次にアフリカについて知っていることを聞いたところ、「ライオン」「サファリパーク」「暑い国」という反応であった。やはり生徒の中では「アフリカ」はたいへん遠い国のようである。その後「ドンバ」のリズムを演奏したCDを聴いてからリズムをたたいたが、どうもイメージがわからないようであった。※柳田知子著「西アフリカの太鼓で踊ろう」より

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<p>1時限（1年音楽） テーマ：アフリカのリズムをたたこう。① ねらい：リズムに興味を持ち、その特徴から演奏されている地域を知る。</p>	<p>(1)リズムをたたいてみて、その特徴からどの地域のリズムなのか考える。 (2)CDや資料集の情報から、アフリカのリズムであることを知る。 (3)地図でアフリカを確認し、アフリカについて知っていることを出し合う。 (4)特徴を感じながら、リズムをたたく</p>	<p>・西アフリカのお祝いの歌「ドンバ」のリズム ・「ドンバ」のリズムを演奏したCD ・音楽資料集 ・社会地図帳</p>
<p>2時限（1年音楽） テーマ：アフリカのリズムをたたこう。② ねらい：アフリカの太鼓の問題や背景を知ること、国際理解につなげる。</p>	<p>(1)マラウイの太鼓を見て、どんな人がたたいているのかイメージする。 (2)その太鼓をたたいている映像を見て、マラウイがどういう国なのか想像する。 (3)数人に太鼓をたたいてもらう。 (4)アフリカの太鼓の抱える問題（太鼓の商品化→森林破壊）について知る。 (5)現地の人にとっての太鼓の役割を考える。</p>	<p>・マラウイで購入した太鼓 ・マラウイの木彫り製品を作っている村で子どもたちが太鼓を演奏しているVTR ・日本で購入したインドネシア製のジンベ</p>
<p>3時限（1年音楽） テーマ：アフリカのリズムをたたこう。③ ねらい：リズムを合わせる楽しさを味わう。</p>	<p>(1)パートに分かれて自分の担当するリズムを練習する。 (2)アフリカの人々のリズム感やたたき方を参考にしながら、全体でリズムを合わせる。 (3)マラウイのウェルカムソングを歌う。</p>	<p>・西アフリカのお祝いの歌「ドンバ」のリズム ・ジンベ演奏のVTR ・マラウイのウェルカムソング「Tiwalandire」</p>
<p>1~3時限（2年選択音楽） テーマ：ジンベに挑戦。 ねらい：アフリカの太鼓やリズムに親しむ。</p>	<p>(1)ジンベ演奏のVTRを見て、アフリカのリズムであることを知る。 (2)アフリカの太鼓のたたき方を知る。 (3)「ドンバ」のリズムの練習をする。 (4)グループごとに発表をする。</p>	<p>・ジンベ演奏のVTR ・西アフリカのお祝いの歌「ドンバ」のリズム</p>
<p>1~8時限（3年選択音楽） テーマ：アフリカの太鼓の音楽を創作しよう。 ねらい：アフリカの太鼓やリズムに親しむ。</p>	<p>(1)「ドンバ」のリズムの練習をする。 (2)マラウイの太鼓演奏のVTRを参考にしながら、「ドンバ」のリズムを基本にして太鼓のリズムを創作する。 (3)グループごとに発表をする。</p>	<p>・ジンベ演奏のVTR ・西アフリカのお祝いの歌「ドンバ」のリズム ・マラウイの太鼓演奏のVTR</p>
<p>1時限（3年総合学習） テーマ：国際協力とは。 ねらい：発展途上国の現状を知り、国際協力のあり方を考える。</p>	<p>(1)マラウイのVTRや写真を見てわかることを話し合う。 (2)教師海外研修に参加した話を交えながら発展途上国に対する国際協力や開発援助について考える。</p>	<p>・マラウイのVTR ・マラウイの写真</p>
<p>2~21時限（3年総合学習） テーマ：国際理解、国際協力について考えよう。 ねらい：自分たちが興味を持つ事柄について調査研究し考察したものを成果として発表する。</p>	<p>(1)「国際理解、国際協力」に関して自分たちが取り組む興味あるテーマを考える。 ①アフリカ私たちにできること ②世界の食文化について知ろう ③ラオスの子どもに絵本を送ろう ④平和貢献した女性たち ⑤世界遺産 ⑥世界の言葉 (2)それぞれのテーマで、調査研究活動をし、文化祭でコーナーを設けて発表した。</p>	<p>・インターネットにおける国際理解や国際協力などのホームページ ・「みんなで国際協力」「やってみよう国際ボランティア」「世界の人と手をつなごう～国際協力を考える～」などの本</p>

2時限（1年音楽）◇アフリカのリズムをたたこう②

前時のCDだけではイメージがわからないようだったので、具体的に映像で迫ることにした。まず、「マラウイから購入してきた太鼓」（写真3）を見せて、どんな人がどのようにたたいているのか想像した。次に「その太鼓をたたいている映像」から演奏の様子とマラウイがどういう国なのか考えた。映像は、マラウイの木彫り製品を作っている村で子どもたちが太鼓を演奏しているVTRであったが、「子どもたちの服がぼろぼろ」「裸足」「平日なのに学校へ行っていない」「木彫りを売っている」「地面が砂でほこりっぽい」「木彫りを売っている店が」という声があがっていた。（写真4）

ここで、自分のやりたい太鼓や打楽器を使ってリズムをたたいた。（写真5）ノリノリの演奏であった。その中の太鼓の1つ「日本で購入したインドネシア製のジンベ」（写真6）を見せながら次のような話した。

あまりにもジンベの需要が増えたために、アフリカでは直径30センチ以上の木はことごとく乱伐され森林破壊が進んでいるという。その需要に生産を間に合わせるために低品質なジンベが多くつくりだされている。インドネシアなどの人件費の安い場所に、機械化した楽器工房を持ち込んで安い民族楽器を生産して世界中に輸出しているようだ。日本でも4、5万するサイズのジンベが1万円以下で売られている。しかし、このインドネシアジンベは、皮を張るロープがビニール製であったり、皮がブタ皮であったり、粗悪なものが多い。この問題は、アフリカの文化を儲けの対象としか見ない資本主義の矛盾である。アフリカの人たちにとって、ジンベのリズムは、仕事であり、娯楽であり、祈りである。つまりは、生活そのものである。このまま無計画な乱伐が続けば、砂漠化を招き西アフリカの生活の場そのものが破壊されかねない状況である。

<http://tako88.hp.infoseek.co.jp/Rhythm/RhythmHouse.html> 音楽評論Djembe由木尾晃より抜粋

このホームページは偶然見つけたものであったが、この事実は私自身相当な衝撃だった。日本でジンベを買うと5、6万円する。予算のない中で太鼓を揃えて授業をしようとする、後先考えずに、つつい安価な楽器に飛びついてしまっていたからだ。

その後、「現地の人にとって太鼓はどのようなものか」を考えるため、JICA北陸柴田まなみさんより「セネガルでの太鼓の役割」を話してもらった。

3時限（1年音楽）◇アフリカのリズムをたたこう③

パートに分かれて自分の担当するリズムを練習した。太鼓をより身近に感じたのか、前向きに練習する姿が見られた。「ジンベ演奏のVTR」でアフリカの人のリズム感やたたき方を参考にしながら、全体でリズムを合わせた。体を大きく揺らしている生徒もいた。

その後、マラウイのウェルカムソング「Tiwa Landire」を歌った。（資料2）この曲は、マラウイの農民たちが歌ったものをその場で採譜し、歌詞のつづりと意味を協力隊の人にきいて、楽譜に起こしたものである。マラウイの女性のスカートであるチテンジェの布を巻いて、気分を出して歌うとゴスペルのようなカッコいい合唱になった。

1～3時限（2年選択音楽）◇ジンベに挑戦

まず、ジンベ演奏のVTRを見て、どこのリズムであるか考えた。音楽を選択している生徒だけに、ジンベを知っているものもいて、アフリカのリズムであることはすぐにわかったようである。次にビデオからたたき方を学び、「ドンバ」のリズムの練習をした。2時間ほど練習して、グループごとに発表した。

1～8時限（3年選択音楽）◇アフリカの太鼓の音楽を創作しよう

この取り組みの本来のねらいは、「世界の諸民族の音楽を演奏しよう」である。「日本の三味線」「韓国のチャング」「中国の器楽合奏」「トルコの軍楽隊メヘテル」「アフリカの太鼓」の5グループに分かれて練習を始めた。「アフリカの太鼓」グループはまず「ドンバ」のリズムの練習をした。マラウイの太鼓演奏のVTRを参考にしながら、「ドンバ」のリズムを基本にして、3時間ほどかけて太鼓のリズムを創作した。その後、練習を繰り返し演奏の形を整えた。石川県音楽教育研究会での研究演奏で発表した。（写真7）

1時限（3年総合学習）◇国際協力とは

本校の3年総合は、1、2年で学んだものを元にして、自分の一番興味のある分野について深く掘り下げるといふ活動をしている。ここに集まった生徒たちは国際交流や国際協力にたいへん興味を持っているので、やる気満々であった。まず、マラウイのVTRや写真を見てわかることを話し合った。次に、教師海外研修に参加した話を交えながら発展途上国に対する国際協力や開発援助について考えた。

2～21時限（3年総合学習）◇国際理解、国際協力について考えよう

前時を受けて、「国際理解、国際協力」に関して自分たちが取り組む興味あるテーマをグループ内で相談して考えた。「アフリカ～私たちにできること」のグループは全校生徒の前でパワーポイントを使って、「アフリカの国マップ」「マラウイについて」「HIVエイズ問題」「日本の協力」「JICAの活動」「自分たちにできること」などを発表した。その後体験コーナーを催して、アフリカンケーキの試食や募金活動を行った。（写真8）

生徒の感想

○アフリカで安く買える、安い人件費だからたくさん買うのではなく、アフリカの文化を考えてその上で太鼓を広めた方がいいと思う。

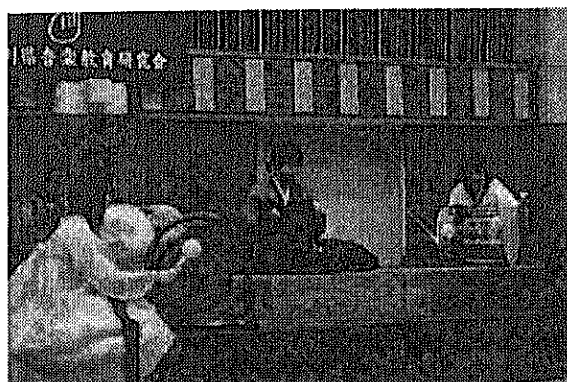
○アフリカの人の音楽が大好きでいつも歌っているところにひかれた。楽しそうでうらやましい。アフリカの学校と日本の学校で交流ができたらいいな。

○太鼓は楽器で演奏するものだと思っていたが、アフリカではチャイムに使われていると知ってびっくりした。国によって違うものだと思った。

○アフリカの太鼓は音もよく、たたくのも楽しかったのに、森林破壊とはショックだった。

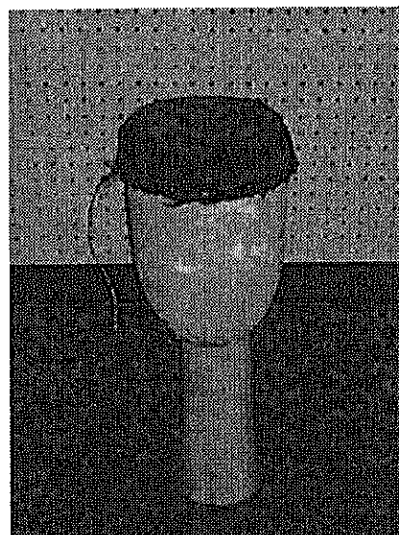


(写真1) 和楽器の演奏 (三味線)



(写真2) 民族楽器の演奏 (韓国のチャンゴ)

ジンベ | パーカ (カ・タ)..... (ハンドリング) R=着 L=着
 コド (キタイ).....
 グン..... ※太鼓の場合
 ジュンジュン | 180-200 (18L ジンベは速く)
 3拍 ジンベ | パン タン キタイ パン タン キタイ ♩=♩
 R L R L R L R L
 2拍 ジンベ | パッ テイ パー パッ テイ パー ♩=♩
 R L R L R L
 ジュンジュン | ガタン (ワウ)ガタン タン ガタン ♩=♩



(資料1) お祝いの歌「ドンバ」のリズム

(写真3) マラウイから購入してきた太鼓



(写真4) その太鼓をたたいている映像



(写真5) 太鼓や打楽器でリズム合奏 (写真6) 日本で購入したインドネシア製ジンベ



(写真7) 石川県音楽教育研究会での研究演奏で発表 (写真8) 文化祭のコーナー

Tiwalandire(みんなで歓迎しよう)

タイワンヂイレ タイワンヂイレ タイワンヂイレ タイワンヂイレ タイワンヂイレ タイワンヂイレ
 アレンド ア トロ タイワンヂイレ アグエラレ ロ タイワンヂイレ

Tiwalandire = Let's welcom them
 alendo = visitors athu = our
 (alendo athu = our visitors)
 abwera = they have come
 lero = today

(資料2) マラウイのウェルカムソング「Tiwalandire」

平成16年度 教師海外研修（派遣国：マラウイ）実践報告書

1. タイトル 幸せってどんな時？

2. 氏名 松山 純子

学校名 福井県鯖江市吉川小学校 担当教科 小学校（美術）

3. 実践教科 総合 時間数 6時間

4. 対象生徒・学年 4年 対象人数 29名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

普段感じている幸せを思い起こし、今まで気付かなかった幸せを感じ、みんなが幸せになるために自分ができることを考える。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
今の自分を考え、みんなの幸せを知る。クイズに答えたり、子供たちの自慢の品をあてたりして、マラウイについて知る。	(1) 今欲しいもの・幸せな時について考える。 (2) マラウイクイズ(マラウイについて知る)。 (3) マラウイっ子自慢の品が入っている、ブラックボックスの中身を、触った感触で予想する。	模造紙 付箋紙 拡大世界地図 DVD スクリーン プロジェクター パソコン写真箱 ペットボトル 手作りサッカーボール 手作りビニールひも ワークシート
実際に遊ぶ活動を通して、マラウイの子どもたちの工夫と、その楽しさを味わう。	(4) ブラックボックスの中身を知る。(実際に遊んでいる様子を見る) (5) 遊ぶ。	
毎日の水の量を考え、いつでも水の出る水道がある幸せに気づき、日頃の水の無駄使いを考える。	(1) 水の使用について考え、一日に使う水の量をあてる。 (2) 水をくみ、頭の上に乗せて運ぶ。	ペットボトル 233,3 本分の絵 鍋 桶 タオル ワークシート
シマ作りを通して、マラウイの食文化を知るとともに、工夫して水を使うことを体験する。	(3) シマの作り方を知る。 (4) 係分担をする。 (5) シマを作り、食べる。 (6) 運んできた水を使って、後始末をする。	シマ粉 鍋 しゃもじ 茶碗 ふきん トマトソース ワークシート
古い紙幣を使っている理由を考えることで、紙が当たり前存在するという幸せに気づき、日頃の紙の無駄使いについて考える。	(1) 日本のお札とマラウイのお札を比較する。 (2) マラウイでは、どうして汚れたり破れたりしたお札も使っているのか考える。 (3) ゴミ箱を見て日頃の紙の使い方を考える。	お札(マラウイ・日本) ワークシート ゴみ入りゴミ箱
欲しい物や幸せについて、みんなとの相違点を考え、みんなが幸せになるために何ができるか考える。	(1) 今までの活動を振り返る。 (2) 日頃の自分の行動を考え、今、ここで、何ができるか考える。	今までの活動を振り返られるもの ワークシート

マラウィという国、またアフリカという地は、子どもたちにとって未知の世界であり、どの活動も大変意欲的に取り組んでいた。

初めに、欲しい物は何か・幸せと感じる時はいつかと聞いた。そして、この質問の答えを付箋に書かせ、模造紙に分類法でカテゴライズしながら貼り、見やすくした(写真①②)。同じような幸せを感じる友達がいるかどうか一目瞭然で、発表では同じ答えの友達はあるか気にする様子だった。プレゼントをもらった時という答えが一番多く、次に遊んでいる時と続き、旅行に行った時、家にいる時や家族といる時、お風呂に入っている時など、多様であった。多様ではあるが、児童はどれについても共感が持てるようであった。

この幸せについての模造紙は毎回掲示し、みんなから出てきた幸せを、マラウィの文化を通して体験し、マラウィの人たちにとってはどうだろうかと考えさせた。考えさせることで、マラウィを通して自分たちの幸せも深く考え直す児童も出てきた。

次に、クイズに答えたり、DVDを見たりして、マラウィについて知る活動を行った(写真③)。そして、子どもたちから出た「遊んでいる時」という幸せを、マラウィの子どもたちが使っている遊び道具で体験した。遊び道具をブラックボックスクイズ形式で問い(写真④)、写真やDVDを見て答え合わせを行った(写真⑤)。遊びは世界共通。すっかり夢中になって楽しんだ。

- ・ 赤のボックスのゴムひもは、とっても楽しかったし、昼休みもやりたいです。(O児)
- ・ ボールでドッジボールをしました。楽しかったです。欲しい物や幸せな時をみんなで言い合って、ちょっとはずかしい時もあったけど、とても楽しかったです。(T児)
- ・ ゴム飛びがうまくできました。マラウィは、とっても工夫しているのが、すごいと思いました。(T児)
- ・ マラウィの人たちは、何でも自分で作って遊ぶのがすごいです。最後にボールやひもを使って遊ぶことが、とっても楽しかったです。(M児)
- ・ マラウィの人たちは、いろいろ自分たちで作って、いろいろな遊びに使っていて、とても感動しました。写真や地図を見て、とても分かりました。もっと知りたいと思いました。(T児)

子どもたちから出た「おいしいものを食べた時」という幸せを、マラウィの食事で体験した。料理には水を使う。しかし、マラウィでは、一般家庭に水道はほとんどない。そのため、マラウィの子どもたちは、水くみといわず、あらゆる仕事を手伝う(写真⑥)。このような、水が身近にある幸せというのは、普段子どもたちは気が付かなかったり、実感がなかつたりするものである。そこで、一日に使う水の使用法や量を考え、そのうち自分たちで一回にどのくらい運べるのか、水くみを体験した(写真⑦⑧⑨)。児童は大変楽しんでいて。なかには、毎日何時間もかけて井戸まで行くというマラウィの子どものことを考える児童もみられた。

- ・ 水を運ぶのが難しかったです。でも、水をこぼさずに行けたので、うれしかったです。またやりたいです。(A児)
- ・ とってもとっても難しかったです。でも、楽しかった。私は落としたけど、マラウィの子どもは、落とすともったいないと思うのだろうな。(O児)
- ・ とっても慎重にやらないとだめなので、とても大変だった。マラウィの人はもっと量が

多いので、とても無理だなと思った。こぼれたら、もっとくみにいかなきゃならないので、大変だなと思う。大変だったけど、楽しかったです。(S児)

- ・ ちょっと難しかったです。マラウイの人って、すごいんだなと思いました。(M児)

そして、くんできた水だけを使って、マラウイの主食「シマ」作りを行った(写真⑩⑪)。苦労してくんだ水なので、ボール使って手を洗うなど、節約の工夫が見られた(写真⑫)。限られた水での後片付けは、もっと大変そうだったが、水をいつも無意識に使っていることに気付いたようだった。シマに関しては、大変楽しそうに調理していたが、味に関しては合わなかったようで、おいしい10人・おいしくない12人と言う結果だった。しかし、給食を初めから少なくするなど、残さない工夫をする児童が見られ、考えていたのと違うところでも、授業の影響が出たように思う。

- ・ 最初はおいしかったけど、だんだん食べていたら、失礼だけどもずかったです。でも作るの、とても楽しかったです。(I児)
- ・ 楽しかったけど、大変。水を使わない工夫もわかったし、これから節約がんばるぞ。(O児)
- ・ 二班が作ったのは、それほどおいしくなかったです。マラウイの人たちがつくったのは、おいしいのかなあと思いました。(K児)
- ・ おいしいと言えばおいしかったけど、あまり食べませんでした。作るのとても楽しかったけど、とても疲れました。マラウイの人たちにとっては、ごちそうなのだと思います。今度は、米をあげたいです。(S児)
- ・ ちょっとイマイチな時もあったけど、茶碗洗いが楽しかったです。マラウイは、大変だなと思いました。(T児)
- ・ 限られた水で調理したり、洗ったりするのは大変だった。(M児)
- ・ シマは、何もつけないと味がなくて、トマトソースをつけるとすごくおいしかった。(K児)
- ・ シマを作ってみて、楽しかったです。食べておいしかったです(ソースがなかったらちょっと…)。マラウイの人たちは、あのシマを毎日作っていると思うと、すごいと思います。使う水を減らすには、食器を水道なしで洗うと言うことだと思います。(S児)

クラスでは、休み時間の落書きや工作には、反古紙を使うルールになっている。しかし、それでももったいない紙の使い方をする児童が多かった。そこで、子どもたちからは出なかった幸せ「紙」について、話し合うことにした。その導入として、マラウイと日本の紙幣を見せ、相違点と共通点を見つけさせた。異文化に出会うと、共通点は見えにくい。子どもたちも、その点は苦労していた。しかし、共通点を見つけようとするのが大切だと思う。次に、マラウイの子どもから、お釣りとしてもらったボロボロのお札を見せ、なぜこんなになっても使うのか考えた。財布に入っていないから・土がついたからなどの意見がでた。日本では破れそうなお札は、どうしているのか、なぜマラウイでは交換されないのか聞いた。難しく感じた児童もいたが、お札にする紙すらも貴重ではないかと考えた児童がいた。そして、ゴミ箱の紙ゴミをみんなで広げて見てみた。何か感じてくれたのか、

授業後、プリントの裏を利用した落書き用紙の白い部分を、また戻す児童が見られた。しかし、紙幣から紙ゴミを見るというこの流れは、少し強引だったと思う。マラウイを知るというのではなく、紙についてねらいがあるこの場合は、ねらいに合わせた導入を練る必要があった。

最後に、今までの活動を振り返り、マラウイの子どもたちと自分との違いを考えた。

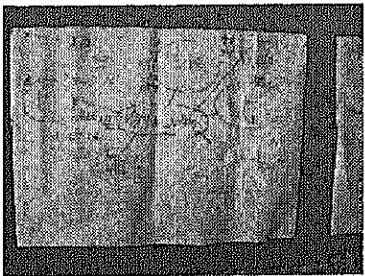
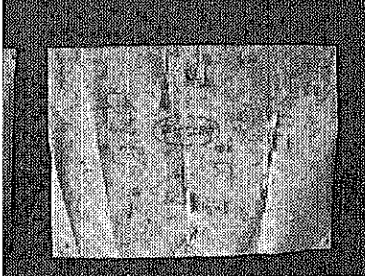
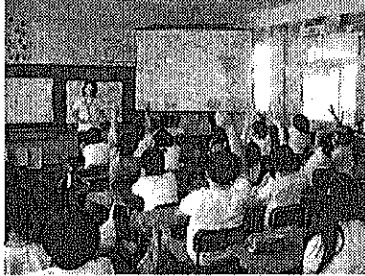


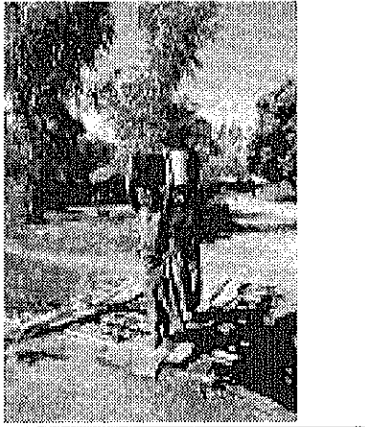
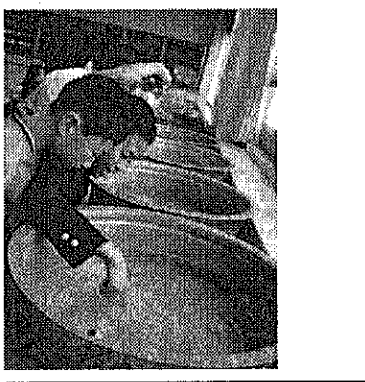


- ・ 日本は生活に役に立たない物が欲しい。マラウイは生活に役に立つ物が欲しい。(O児)
- ・ 日本は無駄づかいばかりしているけど、マラウイは紙を大切にしている。(O児)
- ・ 日本人は贅沢すぎる。(I児)
- ・ 今私が欲しい物は、あまりマラウイの人たちには必要のないものという所が、ビックリしました。(Y児)


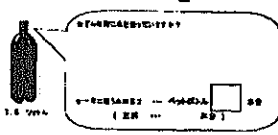


そこから、マラウイの子どもたちも自分も含めた「みんな」が幸せになるために、今何ができるか・何をするのか考えた。それは、特別なことではなく、今できる小さなこと、そしてその積み重ねが大切であると思う。アフリカなどの発展途上国を題材にした場合、マイナス面が先行し、ステレオタイプの人間を育てることになりかねない。そのため、日本に生まれてよかったという考えや募金に頼った解決法に終始しないように心がけた。その結果、今まで行ってきた活動から考えた、身近なことやマナーとして当たり前だと思うようなことを挙げる児童がほとんどだった。

- ・ 蛇口を出しっぱなしにしない。広告の紙は、落書きに使う。(M児)
- ・ まわりのみんなが協力しあい、水の無駄使いとかいろんな無駄をなくしていく。(A児)
- ・ 給食を残さない。紙は、間違いを消して、うまるまで使う。(T児)

さらに海外協力隊の活動なども紹介して、さまざまな協力の方法があると知らせることも大切であったと思う。マラウイで出会った素晴らしい人たちのことは、新聞などで知る機会も少ない。人と人との交流から生まれる支援として、今後の授業に紹介したい。さらに、社会の授業で、マラウイだけでなく、自分の選んだ国について調べ活動を行う予定である。グループで旅行会社を作り、それぞれの国について発表しあおうと考えている。

マラウイを知る授業を通して、自分たちが欲しがらる物は、本来生活必需品ではなく贅沢品ということや、日々の生活でも無駄が多かったことに気付いた児童は多い。そこから、今まで当たり前だと思っていたことが幸せなことだと気付いたり、小さな幸せだと思っていたことが、実は大きな幸せだったことを知ったりしたように思う。自分の何気ない行動が、同じクラスメートや同じ学校の人など、身近な人を困らせることがある。それだけでなく、実は世界ともつながっていて、地球のどこかに住む誰かを悲しませることもある。それを一人一人が自覚できたら、いろんなことが解決に向かうような気がしてならない。今回感じることでできた成果を、一時だけのものにしないよう、継続した指導・声かけを行っていきたい。また、私自身が見て感じたことというのは、伝わりやすかったり説得力が増したりするのを今回感じることでできた。これから、様々なことを伝えられるよう、日々の生活の中で、私自身がいろんなことを感じるアンテナをしっかりとたてておこうと思う。

<p>写真① 今欲しい物</p> 	<p>写真② 幸せな時</p> 	<p>写真③ マラウイクイズ</p> 
<p>写真④ マラウイクイズ</p> 	<p>写真⑤ サッカーボール</p> 	<p>写真⑥ 水運び</p> 
<p>写真⑦ 水運び</p> 	<p>写真⑧ 水運び</p> 	<p>写真⑨ ためた水</p> 
<p>写真⑩ シマ作り</p> 	<p>写真⑪ シマを分ける</p> 	<p>写真⑫ 手洗い</p> 

<p align="center">ワークシート①</p> <p>お名前? No.</p>  <p>黒いブラックボックス…</p> <p>中身は何でしょう?</p> <p>予想…</p> <p>ヒント予想…</p> <p>正解…</p> <p>★今日の感想が嬉しかったですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>★感想 (どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか?)</p>	<p align="center">ワークシート②</p> <p>お名前? No.</p>  <p>マラウィ体験2 "MARAUI" EXPERIENCE</p>  <p>★今日の感想が嬉しかったですか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>★感想 (どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか?)</p>				
<p align="center">ワークシート③</p> <p>お名前? No.</p> <p>マラウィ体験3 "MARAUI" EXPERIENCE</p>  <p>今日の感想が嬉しかったか? シマ</p> <p>① 感想…</p> <p>② シマの感想…</p> <p>③ シマの感想…</p> <p>④ シマの感想…</p> <p>⑤ シマの感想…</p> <p>★今日の感想が嬉しかったか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>★感想 (どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか?)</p>	<p align="center">ワークシート④</p> <p>お名前? No.</p> <p>今日の感想が嬉しかったか? シマ</p> <p>自分とマラウィの感想、比べてみよう!</p> <table border="1" style="width:100%; height:100px;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center">マラウィ</td> <td style="width:50%; text-align:center">自分</td> </tr> </table> <p>★今日の感想が嬉しかったか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>★感想 (どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか?)</p>	マラウィ	自分		
マラウィ	自分				
<p align="center">ワークシート⑤</p> <p>お名前? No.</p> <p>今日の感想が嬉しかったか? シマ</p> <p>自分とマラウィを比べてみよう</p> <table border="1" style="width:100%; height:100px;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center">マラウィ</td> <td style="width:50%; text-align:center">自分</td> </tr> </table> <p>★今日の感想が嬉しかったか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>★感想 (どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか?)</p>	マラウィ	自分	<p align="center">ワークシート⑤</p> <p>お名前? No.</p> <p>今日の感想が嬉しかったか? シマ</p> <p>自分とマラウィを比べてみよう</p> <table border="1" style="width:100%; height:100px;"> <tr> <td style="width:50%; text-align:center">マラウィ</td> <td style="width:50%; text-align:center">自分</td> </tr> </table> <p>★今日の感想が嬉しかったか? <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>★感想 (どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか? どう思ったか?)</p>	マラウィ	自分
マラウィ	自分				
マラウィ	自分				

平成16年度教師海外研修（派遣国：マラウイ共和国）実践報告書

1. タイトル マラウイ共和国から日本の私たちを考える

2. 氏名 水野 悟

学校名 三重県立桑名高等学校 担当教科 社会

3. 実践教科 総合学習 時間数 3時間

4. 対象生徒・学年 1～4年生、
他校の総合学習担当者 対象人数 53人

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ①他国、マラウイ共和国の一面を知ること
- ②他者の「幸せ」を知ることで「私の幸せ」を発見し、自尊感情を育むこと
- ③人類に共通する「幸せ・不幸せ」に気づくこと
- ④「私の幸せ」から「私たちの幸せ」につながる道筋を考えること

(2) 授業の構成案

“マラウイ共和国から日本の私たちを考える”（ワークショップ形式）

時限	ねらい	方法・内容	使用教材
1 (事前)	① 映像でアフリカの現状と問題を知る ② 日本との関わりについて考える(身近な素材で)	① アフリカの貧困の誘因に、内戦・エイズ・食料問題などがあることを知る。 ② 私たちの生活がアフリカの搾取の上に成り立っている側面があることを知る	① VTR「アフリカの現在」(一部) ② TV「あいのり」のHP(番組脚本)
1	他者の「幸せ」を知ることで「私の幸せ」を発見すること	・ アイスブレイク(「安心、フルーツバスケット」「以心伝心」ゲーム)、グループ分け ・ 「私の幸せ」・「私の不幸せ」(KJ法、BSを使用)を付箋に書き、模造紙の左半分に貼る	椅子、机、付箋、マジック、模造紙、グループ名カード、ストップウォッチ
1	他国、マラウイ共和国の一面を知ること 人類に共通する「幸せ・不幸せ」に気づくこと	・ マラウイ共和国を見る(DVD) ・ マラウイ共和国を知る(PPT) ・ 「マラウイの幸せ」・「マラウイの不幸せ」(KJ法、BSを使用)を付箋に書き、模造紙の右半分に貼る ・ 共通する「幸せ・不幸せ」を真ん中に張り出す ・ それを班毎に発表する(シェアリング)	DVD、PPT 椅子、机、付箋、マジック、模造紙、マイク
	意見交換(ふりかえり) 検証	・ 「総合学習ノート」の記入 ・ 「以心伝心」ゲーム ・ マトリックスの校内掲示、アンケートの還元	ノート、鉛筆 ストップウォッチ

授業の詳細

テーマ “マラウイ共和国から日本の私たちを考える”

1時限 「アフリカの現在」を知ろう（事前学習）

1. VTR「アフリカの現在」を見る

2学期末の「総合学習」にむけて、事前学習の時間を1時間（45分）とった。

各学年（クラス）の授業を利用して、2004.10月に放映されたNHKのETV.SP「アフリカの現在」（90分）からトピックを精選して見せた。特に、アフリカの貧困の重要な原因とされる①内戦②エイズ③食糧問題に絞った。

2. アフリカと日本との関係を知る

フジテレビの「あいのり」（2004.11.29OA）の台本の一部を配布する。アフリカを縦断旅行していく若者グループの番組だが、エチオピアでの食事をきっかけにアフリカの飢餓、さらにそれを加速させた'70代の先進国による「緑の革命」について解説している。その後、彼らは日本で消費し廃棄している自分たちの食料問題に気づいていく。

【意図】

途上国の搾取の上にいる日本の「豊かさ」があること知る。

【反応】

「あいのり」は多くの生徒が見ていた。その為かアフリカがより身近に感じられたようだ。

2、3時限 「幸せ」を考えよう

1. 心をリラックスする（アイスブレイク）

視聴覚教室の長机を端に寄せ、椅子を円形に並べる。つぎつぎに入ってくる生徒たちは、いつもの雰囲気と違うようだと感じながらも好きな所に座っていく。

全員（50名ほど）が座り終えたところで、「安心、フルーツスクット」（人数以上の椅子がある）をする。「ペットを飼うなら…」とか、「海外旅行に行くなら…」と質問を出していくが、グループ分けを察しているようで素直に席を替わらない人もいた。ほぼ混ざったあたりで立って手をつないで円をつくり、「以心伝心ゲーム」に移った。手をつなぐことに抵抗があるらしく、もじもじしている。ともかくゲームの説明をし、右隣へ握手を伝達して一周する時間を計る。32秒超だった。

その時間を告げた後、全体を5人ずつのグループに分けた。

2. 「私の幸せ」を考える

あらかじめ用意しておいた、マジックポスイト（付箋）・模造紙を各グループに配る。そのうえで、正面の画面に教示を映し出す。Ac1.「あなたの『幸せ』って何ですか？」（私の「幸せ」、または私が「幸せを感じる時」をいくつか書いて下さい）。

付箋に回答を書き終えたのを見届け、逆の問を示す。

「あなたの『不幸せ』って何ですか？」（私の「不幸せ」、または私が「幸せじゃない時」をいくつか書

「私の幸せ」って何？ ↓



いて下さい。

続いて、各自の付箋を模造紙の左半分の上下に貼りつけ、分類分けしてもらおう。簡単な KJ 法の体験である。

【意図】

改めて「幸せ」って何だろうと考えると、うかばないかもしれない。気がつかないだけならいいが、本当に「幸せ」感がないのかもしれない。しかも、それが「自尊感情」の欠如になることがある。「私の幸せ」の発見をしてほしい。

【付箋への記述】

幸せ：一人で自分の好きなことを満喫できた時/やろうとしたことがうまくいった時/勉強できること/誰かと一緒に笑えること/愛する人と一緒にいる時/介抱された時/自由がある/ソフトクリームを食べている時/子どもが自分の夢に向かって努力している時/争いごとがない/ありふれた環境にぬくもりを感じる時 など

不幸せ：人間関係がうまくいかない時/暴力で私を屈服させる/人に愛されていないことが分かった時/彼氏とケンカした時/家族がうまくいかないことがある時/日本の国がまちがった方向へ進んでいると思う時/誰かの批判を聞いた時/誰かにいじわるをした時/大勢の人という時 など



「パワーポイント」の一部分 ↑

3. 「マラウイ共和国」を知る

室内を暗くし、画面にDVDを上映した。一緒にマラウイに行ったI氏が編集作成してくれたものの一部分を見てもらう。自然と動物の様子、子どもたちと学校に状況、農婦たちが働く様子などである。

さらに、PPT(パワーポイント)を使い、この国の実態をクイズ形式で考えてもらった。

【意図】

エイズの(健康、経済、労働への)影響、子どもたちの学校でのようすと教育制度の実情を見て、そのうえで誰もが「幸せになる権利」を保有していることを知ってもらうこと。

【反応】

生の映像の迫力と、クイズに参加することで得られた印象はよかったと思う。

4. 「マラウイの人々の幸せ」を考える

正面のスクリーンに、次の教示を映し出す。Ac2.「マラウイの『幸せ』って何だと思いますか？」(マ

ラウイの人々の「幸せ」、またはマラウイ人が「幸せを感じる時」をいくつか書いて下さい。

さらに、同じく逆の間も示す。「マラウイの『不幸せ』って何ですか？」(あなたが考えるマラウイの人たちの「不幸せ」、またはマラウイ人が「不幸せだと感じる時」をいくつか書いて下さい)。

同じように、各自の付箋を模造紙の右半分(左には「私の幸せ、不幸せ」がある)の上下に貼りつけ、分類分けしてもらおう。これで、日本とマラウイ共和国の「幸せマトリックス」ができた。そのうえで、他の班のマトリックスも見に行ってもらおう。(拡大BS)

【意図】

DVDとPPTを見て、さらに私の経験談や情報から感じとったマラウイ共和国の人々の「幸、不幸」を想像してもらおうこと。

「幸せ」マトリックス ↓

日本で生活している 私たちの幸せは何か	マラウイの人々の幸せ は何か
日本で生活している 私たちの不幸せは何か	マラウイの人々の不幸せ は何か

【付箋への記述】

幸せ：食物がよく育ち、収穫できること/家族がみな仲よいこと/人にほめられた時/みんなで楽しく歌を唱っている時/仲間と共に道具を作ること/健康でいられること/子どもが病気にかからないこと/長生きできること/HIVにかからなくなること/好きな人という時/友達としゃべっている時 など

不幸せ：周りの人が死んでいく時/病気に感染して生まれてくる/学校に行けない/HIVにかかってしまった時/飢え/勉強ができないこと/親がはやく死んでいない/教科書がなく授業が受けられないこと/家族が病気などで死んでいってしまう時/HIVなどの病気にかかる確立が高いこと など

5. 「共通の幸せ」を考える

「幸せマトリックス」(上図)に描かれたもののなかで、日本とマラウイ共和国に共通する付箋を中央の縦軸に集める。Ac3.「マラウイの人々と私たちに『共通の幸せ』って何ですか?また、マラウイの人々と私たちに『共通の不幸せ』って何ですか?」



「共通の幸せ」って何? ↑

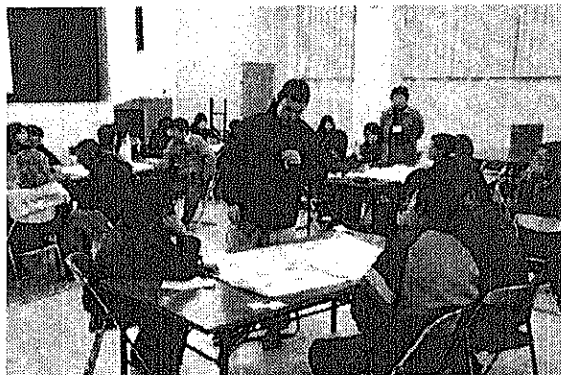
その作業が落ち着いたところで、班の中で発表者を一名決めてもらう。そして、マイクをまわし「マラウイの人々と私たちに『共通の幸せ』について班ごとに発表してもらった。(シェアリング)

【意図】

「違い」を認識したうえで、人間に「共通する幸せ」を知ること。そして、その内容の意味することに

ついて考えること。

(「幸福な家庭の顔はお互い似かよっているが、不幸な家庭の顔はどれもこれも違っている」トルストイ)



〔マトリックスへの記述〕

共通の幸せ：愛する人と一緒にいる時（好きな人という）/誰かと一緒に笑えること（みんなで楽しく歌を唱っている時）/勉強できること

← みんなでシェアリング

「私の幸せ」に特徴的なもの：一人で自分の好きなことを満喫できた時/やろうとしたことがうまくいった時/子どもが自分の夢に向かって努力してい

る時/争いごとがない/ありふれた環境にぬくもりを感じる時

「マラウイの幸せ」に特徴的なもの：健康でいられること/子どもが病気にかからないこと/長生きできること/HIVにかからなくなること

6. ふりかえり

「いま、思っていること。今日の授業で感じたことは何ですか」という問いに答えてもらい、つづいて「総合学習ノート」を記入した。

【反応】（資料1）

7. おわりに

もう一度全員で輪になって、はじめに行った「以心伝心ゲーム」をやる。今度は手をつなぐことへの躊躇もやり直しもなく一回で成功。時間は17秒であった。1回目より半減した。

【意図】

もちろん連帯感の確認である。

「マトリックス」の掲示 ↓



事後 あらためて、「幸せ」について考えよう

その後のこと

後日、全班の「マトリックス」を校内の廊下に掲示した。また、アンケートの結果を「総合学習だより」として配布した。（資料1）

なお、2月に三重県高等学校国際教育研究協議会で報告した折りに配布した資料を最後に載せた。（資料2）

(資料 1)

「総合学習」便り

2004.12.21 第4号 桑名高校定時制

12/14のワークショップ「マラウイから私たちを考える」はいかがでしたか？

ゲームを含んだグループワークには戸惑いもあったでしょうが、自分とは違う他者の考えが分かったり、他国の発見もあったのではないのでしょうか。

みなさんが作成した模造紙のマトリックスは階段下に掲示してありますのでご覧ください。

(水野)

★アンケート結果 (単位：人)

	とても良かった	良かった	どちらでもない	興味が持てない
合計 50 (教員含む)	19 (38%)	21 (42%)	7 (14%)	3 (6%)

ワークショップの最後に。いま思っていること、今日の授業で感じたことは何ですか？

マラウイの方がすごい貧しいってこと、でも日本より仲間意識が強い。まわりのやる気のなさにムカついた/共通していたのが食べることや病気のことでした/私たちはすごく裕福な生活をしていると改めて感じた。いままでそれが当たり前だったことが悲しく思う/自分が幸せって思っていることが、本当に幸せなのかな？と思い、何が幸せなのかが分からなくなりました。マラウイの人々を見ると、とても違ったことがすごく幸せで羨ましいと思います/命は大事だと思った/仕事があって生きていることがありがたい、けど仕事ばかりでもどーなのか/水野先生らしいなあと久しぶりに思いました。いつもの学習と違い楽しく学べました/マラウイの人々の心の強さとプラス思考がすばらしい/日本は豊かだ/私たちの幸せと少しレベルが違うなと思った。いかに裕福に育っているかが分かった。いろんな事を大切にされた方がいいなと思った/マラウイとの状況にカルチャーショックを受けたこと/改めてアフリカに行きたいという気持ちが強くなった。人間はどこに住んでいようと、同じ所に向かおうとしていると思った/貧しい国の人々ばかりでなく、明るい国やみんなが知っている国をやってほしい/「人間平等」というけれど、食事や住宅のことなど全然平等ではない/住む国は違っても人との交わりは同じであり、人間性はとても大切であることを再認識しました/日本で当たり前なことがマラウイではない。しかし、マラウイでしかない温かいことがあるんだと感じた/日本は四季に恵まれ、食べ物が豊富にあり、少し贅沢だなと思いました/貧しい国を少しでも救ってあげられたらと/しあわせって何だろうと思った/日本や自分の幸不幸はすぐに思いついたけど、マラウイの事は分からなかった。すごくいい勉強になった/マラウイの人たちが楽しそうに歌っている姿を見ると「幸せ」に必要なものは「たくさん」ではないことがわかる。一方、個人ひとりひとりの努力ではどうしようもないことが多く、無力感も出てくる/物質的に恵まれてない方が幸せが素朴で多い気がする(想像)/いろいろな動物がいる/マラウイの人々はその生活を喜んでいる/自分の目で見たい/歌がうまいなあ/分かったことは少なかった、でも楽しかった/マラウイの人に比べて日本人は贅沢/世界の国々のことを僕たちは何も分かっていないんだと思った/もっとビデオを沢山見たいです。どんなふうに住んでいるのか、子ど

も多いとか/日本で生まれたこと、いまこうして穏やかに生活していることに感謝です/アフリカではエイズやマラリアで子どもたちが死んでいくことがショックでした/私たちが考えたマラウイの人達の幸せは完全に一致するものではなく、私たちの幸せや不幸と錯覚してはいけないと思った

★みんなの感想から

今日のワークショップ（授業）のなかで、何に興味をもちましたか？

アフリカを支援する日本人の団体や個人で活動している人がいること/アフリカへ日本人が何人か行って、ともに生活していること/世界の中で貧富の差がこれほどまでとはと、新たに感謝しました/ビニールで作ったサッカーボールはスゴイとおもった。物を大切にしない欧米人には無理だなーと感じた/今度作ってみる/マラウイの人々の生活、食べ物、歌、よく唱うこと、表情/何であんなに楽しく歌ってられるのか/学校のこと、授業風景、英語でしゃべって私より賢いだろうなー/土を掘り、水を入れて、魚を飼うこと/はじめのゲーム/マラウイと日本の GNP の差ってどこからきているの/「生きる」ことについてはどの国も同じ感覚だと感じました/エイズで亡くなる人が多いなんて知らなかった/

今日のワークショップ（授業）のなかで、考えたこと、発見したことは何ですか？

日本と大きな経済格差がある中で、私たちに何ができるか/エイズや食料不足で平均余命が 39 歳なこと、10 歳までに子どもの大半が死ぬこと/日常生活での不満/なぜ女の人ばかり働くのか/いかに自分たちが豊かに暮らしているのか、反対にマラウイなど貧しい国がたくさんあること/歌って踊って楽しそー/「幸せ」が一緒だった/日本に生まれてよかった/学校制度が 8・4・4 なこと/「幸せ」は口で言うのは難しい/いつもは先生の話の話を聞いているだけでつまらないけど、今日はみんなの違う意見が聞けた事/貧しいこと、でも楽しく過ごしていることが分かった/病気になっても医者や病院にかかれないことが問題/マラウイも日本も友だちを大事にする/「生きる」ことは楽しく過ごすことだと感じました/人の幸せ、不幸せはそれぞれ違うことを知った/マラウイの学校、貧しい中にも笑顔があっといういなあと思った/生活が思ったより厳しい/つらい生活の中でもより楽しく生きようと頑張っている/小学校の卒業率が低いこと/僕たちと「幸せ」の考え方が全然違った/アフリカ＝貧しく、かわいそうなイメージだったので、楽しく歌を歌う姿がとても印象に残りました/食べることは大切だ、食べられること/マラウイにも日本人が教えに行っているんだと知ってびっくりしました/日本は裕福すぎることを、それをもっと喜ぶべきだと思う。マラウイの人々はみんな仲良しだった/人はどこの国でも同じだけ悩みがあるのだなあと思った/共通の幸せ、不幸せがある/

★今後、どんなことを知りたいですか。

人権について/各国、アフリカのこと/世界の動きをよく知りたいので、こんな感じの総合学習をもっと沢山やってほしい/マラウイの人を呼ぶ!/小説/地域学習/生活の実態について/虐待について/戦争/ボランティア活動について、今できることをしたい/生死について/遊び感覚でできること/人の心や人間に関すること/自然について/今日みたいな授業は楽しかった/

(資料2)

【補論】

「豊かさ」とは何だろうー「貧しい」と誰が決めるのか

水野 悟 (桑名高校定時制)

平均余命 38.5 歳、HIV 感染者 90 万人 (総人口に占める割合 7.8%、うち成人は 15.0%)、毎年 8 万人がエイズで死亡し、その結果エイズ孤児が 32 万人生まれる。人々に毎日、3 度の食事をする生活力はない (例えば、アメリカ人経営のタバコ農園で働く日払いが 50kw= 約 50 円)。これがマラウイ共和国の一側面である。

現地説明を受けた JICA 専門員の大溝さんは、Chdochi 村の子どもたちに向かって「おまえたちには将来がないもんな」といって頭をなでた。「マラウイ人=人一服」と見るべきだという。服は着ているが、それは先進国からのドネーションで自国生産のものはない。「反吐がでるほどの貧困」、3 年以上滞在した彼がこの国を表現した言葉である。

アメリカの穀物メジャーがこの国にメイズ (とうもろこし) のハイブリッド種を持ち込み、その結果、生産性はあがるが翌年からずっとその種を仕入れなければならなくなり (しかも、化学肥料もいる)、土地が疲弊して従来の農業が衰退していった。

貧者 (poor) という言葉は、ラテン語の pauper (不足) から派生した。同じく、富裕 (rich) もラテン語の rex (王) から派生した。王は臣下 (subject) があって初めて王となる。つまり、他者を支配することによって富者になる。つまり、貧者は「他人を支配する力を奪われている人」と言える。

ときに、開発援助は貧困や差別を人為的に作り出す。あるひとつの経済的ものさしに当てはめて、「先進国」、「途上国」のレッテルを貼ることは経済的優位者が自らの優位性を守る手段になる。こうした世界観は、自らのものさしの価値尺度を固持するが故に差別主義的となる。進歩史観、発達段階史観が現代世界の人種・民族・弱者差別の根底にあるのではないか。

「貧困とは、低所得に由来するもの (所得貧困) ではなく、資源や機会へのアクセスが剥奪され、それによって基本活動が実現し得ていない状況をいう。」(アマルティア・セン)

マラウイ共和国のムーア博物館を見学したおり、携帯したサンドイッチを食べている我々の傍らに来て、お腹をさすり手を差しだし食べ物を乞うた子どもに、私はなんと言葉をかけどんな行動をとったらよかったのだろうか。

「自立」支援と「要請主義」は一体のものである。「開発協力」へ移行したいまも、誰にとっての援助、開発なのかは問われ続けるべきである。自律的發展をマハトマ・ガンジーは「スワラジ」と言った。英語では home rule と訳されているがガンジー自身の定義では「我々が自分自身を支配すること」である。

参考文献：西川 潤「人間のための経済学」(岩波書店、2000)

参加者募集！

平成16年度 教師海外研修のご案内（東海・北陸対象）



独立行政法人国際協力機構（JICA）では、この夏、小学校・中学校・高校の先生方を対象として、開発途上国における国際協力の現場を視察する海外研修旅行を行います。

国際理解教育や開発教育、開発途上国の諸問題に関心をお持ちの先生方の参加をお待ちしております。

主催：独立行政法人国際協力機構（JICA）

後援：文部科学省、外務省、静岡県教育委員会、愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、石川県教育委員会、福井県教育委員会、富山県教育委員会、名古屋市教育委員会

事務局：特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

募集要項

研修のねらい

平成14年4月より「総合的な学習の時間」が本格導入されました。JICAは、総合的な学習の時間等において取り組まれている国際理解教育・開発教育について、国際協力事業を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、積極的に協力していきたいと考えています。

本研修は、国際理解教育・開発教育に関心のある学校の先生方に対し、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な協力活動の視察を通じ、その経験を帰国後の授業実践に活かし、生徒の国際理解、国際感覚の養成につなげてもらうことを目的に実施します。

派遣国では、下記の分野の協力活動を中心に視察していただきます。

（※一部派遣国については、現地事情によりすべての分野の協力活動の視察は困難な場合がございますのでご了承下さい。）

- 1) 基礎教育： 政府の教育予算や教員の不足、貧困・男女格差などのために教育機会が限られている子供を多く抱える途上国で行われている様々な教育援助の視察。
- 2) 保健医療： 高い乳幼児死亡率、妊産婦死亡率を抱える途上国の保健医療の現状とその課題に取り組む援助活動の視察。
- 3) WID（ジェンダー）： 就学・就業の機会の男女格差是正、女性の経済・社会活動のエンパワーメントなどの課題に取り組む専門家やボランティアの活動の視察。
- 4) 自然環境破壊： 環境の悪化・生物多様性の減少などの自然破壊の進展を防ぎつつ、持続可能な開発のために行われている様々な協力の現状視察。

参加資格

- ① 小学校・中学校・高校・盲・聾・養護学校の先生、教育委員会の職員で、授業もしくはクラブ活動等で国際理解教育・開発教育を実践されている方、また帰国後必ず経験を実践に活かしていただける方
- ② 海外研修に際し、健康上支障がなく、全日程参加可能な方
- ③ 所属する学校長もしくは教頭の推薦が得られる方
- ④ 研修後、JICAが実施する開発教育支援事業に参加・協力可能な方
- ⑤ 過去に本研修に参加された方、青年海外協力隊、JICA専門家、シニア海外ボランティア等JICAから海外に派遣された経験のある方は除く

応募方法

3～5ページの参加申込書に必要事項を記入の上、7ページの教師海外研修応募・問合せ先宛にご送付ください。
5月31日（月）必着。6月中旬までに選考結果を通知します。

募集対象県・対象教員

募集人数	募集対象県	派遣国
10人程度×2チーム	岐阜、静岡、愛知、三重、富山、石川、福井の小学校・中学校・高校教員、教育委員会職員	ガーナ、マラウイのいずれか ※注

※注：各参加者の視察先については、当方で決定させていただきます。



募集人数

各国10人程度（募集人数を越えた場合は、提出書類に基づき選考を行います。）

研修日程（予定）

- 事前研修（名古屋） 平成16年7月18, 19日 於：JICA中部
 - JICAの事業概要及び訪問国の任国事情、研修参加者による体験談をご紹介します。
 - 参加教員の意見交換・役割分担、渡航手続きの説明等も行います。
- 海外研修（派遣国） 平成16年7月28日（水）～8月9日（月）（現地滞在9日間程度）
 - 現地滞在日数はほぼ同じになります。渡航に長時間を要する訪問国は、海外研修の全日程が長くなります。
 - 海外研修では、JICAプロジェクト・青年海外協力隊活動現場の視察、NGO活動現場の視察、意見交換、市内視察等を予定しています。
 - 海外研修日程は、フライト等の都合で変更する可能性があります。
- 開発教育指導者研修（参加推奨） 平成16年6月12, 13日、7月17, 18日、9月4, 5日 於：JICA中部
 - 国際理解教育、開発教育について参加型ワークショップを通して学ぶ講座である「開発教育指導者研修」（詳細は、JICA中部 HP：<http://www.jica.go.jp/worldmap/toukai.html> ないし開発教育指導者研修チラシ参照）への参加を奨励します。（本研修参加者については、交通費、宿泊費JICA負担）
 - 指導者研修に参加される場合には、別途指導者研修の参加申し込み用紙にご記入いただく必要がありますので、予めご了承下さい。



参加費用（予定）

参加者の個人負担とJICAの負担は下記の通りです。

	個人負担経費	JICA負担経費
国内 （名古屋での研修）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食費（ただし、7/19の朝食は宿泊費に含まれています） ・ パスポート取得にかかる費用 ・ 予防接種料（必要に応じて） ・ 追加保険の加入費用 ・ その他個人的性格の費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修にかかる国内宿泊費（JICA国内機関宿泊予定） ・ 研修にかかる国内交通費（事前研修、開発教育指導者研修含む） ・ 査証代 ・ 国内旅行保険（往路、復路） ・ 空港使用税 ・ 空港までの交通費
海外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食費 ・ 追加保険の加入費用 ・ その他個人的性格の費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 往復渡航費 ・ 現地での宿泊費 ・ JICA国際協力共済会加入費用 ・ 海外での空港使用税 ・ 現地視察に必要な費用（車両備上、通訳など）

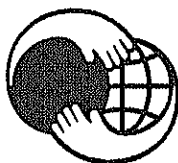
その他の注意事項

- ① 本事業は研修旅行であり、JICAにおける労災保険等の適用はありません。
- ② 所属先の業務出張扱いにて参加される場合は、各所属先の責任において、参加期間中の業務上災害に対する補償措置を行ってください。
- ③ JICAは出張命令依頼書等の発出を行いません。
- ④ 帰国後は2週間以内に研修報告書（所定の様式）を提出していただきます。
- ⑤ 研修での経験を、授業またはクラブ活動等で実践した報告書を平成17年2月18日（金）までに提出していただきます。研修報告とあわせて編集し、より多くの先生方に活用していただくための冊子を作成します。
- ⑥ 出発前日につきましては、空港最寄りのJICA国内機関への宿泊を予定しております。その際に出発にあたっての確認事項を伝達する予定です。
- ⑦ 帰国報告会を実施しますので、現地での研修や、授業等での実践内容について発表していただきます。（東海4県：1月22, 23日実施予定、北陸3県：未定）

平成16年度 教師海外研修 報告書

発 行 平成17(2005)年3月
発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部国際センター (JICA中部)
〒465-0094 名古屋市名東区亀の井2丁目7番地
Tel : 052-702-1391 Fax : 052-702-1390
<http://www.jica.go.jp/worldmap/toukai.html>
E-mail: jicacbic@jica.go.jp
編 集 協 力 特定非営利活動法人 N I E D ・国際理解教育センター
<http://nied.love-hug.net/> E-mail: nied@love-hug.net

jica



50th
anniversary

JAPAN
Official Development Assistance